

平成30年度事業報告書

(平成30年4月1日～平成31年3月31日)

1 事業の状況

1. 書道文化の普及（第4号事業関係）

(1) 書道文化の普及のための春敬記念書道文庫収蔵品の貸出

1. 平安書道研究会（主催・一般社団法人書芸文化院）平成30年4月～平成31年3月の間
毎月1回、東京国立博物館平成館大講堂及び五島美術館を会場に、第820回～第831回を実施した。各回テーマに沿った古筆を5～6点ずつ露出展示している。
2. 「第58回現代かな書道専門講座」（主催・かな書道作家協会）への貸出
日程・会場：平成30年4月29日 日本教育会館
伝藤原佐理筆「筋切」、伝藤原行成筆「古今集切」等5点を貸し出した。
3. 「第70回毎日書道展 関西展, 東海展、特別講習会」への貸出。
日程・会場：平成30年8月17、18日 マイドームおおさか
8月19日 半田市赤レンガ建物
伝藤原行成筆「針切」、藤原定信筆「石山切(本願寺本三十六人家集) 貫之集下」、伝西行筆「小色紙」、の3点を貸出。
古筆解説は飯島太比呂理事長が担当した。
4. 「筆が奏でる琳派の美」展(主催・筆の里工房)への貸出。
日程・会場：平成30年9月22日～11月4日 筆の里工房
光悦筆「梅摺下絵新古今集和歌巻断簡」と「書状 本十三殿宛」の2点を貸出。
5. 「第37回 書道教養講座」（主催・一般財団法人日本書道美術院）への貸出
日程・会場：平成30年10月8日 日本教育会館
伝藤原行成筆「関戸本和漢朗詠集」及び何紹基筆「行書四屏」の2点を貸出。
6. 「飯島春敬 書の門流展」（主催・飯島春敬 書の門流展実行委員会）
日程・会場：平成30年10月30日～11月5日 東京美術倶楽部
小野道風筆「絹地切(紅線毯)」と伝藤原行成筆「かな消息」等の17点を貸出。
7. 「新生30年記念 さわらび会書展」（主催・さわらび会）への貸出
日程・会場：平成30年11月21日～11月30日 北海道立近代美術館
伝藤原行成筆「古今集切」を伝小野道風筆「小島切」等7点を貸出。
8. 「第70回毎日書道展 東海展, 特別企画展「呉昌碩とその周辺の人々」への貸出。

日程・会場：平成 30 年 11 月 27 日～12 月 2 日 愛知県美術館ギャラリー
呉昌碩題識「周銅器拓本」と呉昌碩筆「行書幅 骨肉標矛盾」の 2 点を貸出。

9. 「顔真卿 王羲之を超えた名筆」展への貸出。

日程・会場：平成 31 年 1 月 16 日～2 月 24 日 東京国立博物館
藤原佐理筆「国申文帖」1 点を貸出。

10. 総合文化展「書画の展開—安土桃山～江戸」への貸出

日程・会場：平成 31 年 3 月 12 日～4 月 17 日 東京国立博物館
正親町天皇宸翰「詠草切」1 点を貸出。

(2) 写真の掲載許諾

1. 大東文化大学『月刊 大東書道 5 月、6 月号』に伝藤原行成筆「針切」の掲載を許諾。
2. 三徳庵発行の月刊誌『茶道の研究』平成 30 年 4 月、8 月号で、名児耶明理事連載執筆の「書に親しむ」に、伝飛鳥井雅経筆「今城切」、伝藤原行成筆「亀山切」の 2 点の掲載許諾。
3. (有)書芸文化新社『古筆カレンダー2019 年』に伝藤原行成筆「大字和漢朗詠集切」等 5 点の掲載を許諾。
4. 東京書籍発行の高校書道教科書『書道Ⅱ』（平成 30 年 4 月発行）に「本願寺本三十六人家集（石山切）」のカラー掲載を許諾。
5. 徳島県立文学書道館発行の「書道特別展 小坂奇石の折帖」図録に「淳化閣帖 材官本」より 5 点の掲載を許諾。

2. 書道に関する展覧会の開催（第 5 号事業関係）

(1) 「第 69 回連合書道展」、「第 32 回関東女流書展」の開催

書道の奨励・育成を目的にした「第 69 回連合書道展」を平成 30 年 9 月 1 日より 8 日まで東京都美術館において開催した。参加団体は 14 団体。総出品点数は 503 点（前回 513 点）。

観客入場者数 6373 名（前回 6470 名）であった。9 月 3 日（日）には、席上揮毫を 24 名の先生方に出していただき実施。大変好評であった。

また、特別企画として、同展覧会場内で「第 32 回関東女流書展」を開催した。関東地方を代表する女流書家による展覧会で、漢字・仮名・新書芸などの各部門に 203 点（前回 209 点）の出品があった。

なお、今年度からの新しい試みとして、連合書道展の一環として平安書道研究会受講生による「臨書コーナー」を開設した。第 1 回にもかかわらず、34 名の受講生の出品を得ることが出来た。出品者からは、日頃の研修の成果を発表することができたと好評であった。今後も継続していきたい。

3. 書道専攻者の養成（第 7 号事業関係）

(1) 平安書道研究会の開催

昭和 25 年から、毎月 1 回古筆を出陳して鑑賞し、日本書道史研究に必要な専門的内容を学ぶ平安書道研究会を一回も休むことなく開催している。平成 30 年度も、平成 30 年 4 月 (820 回) から平成 31 年 3 月 (831 回) まで、会場を東京国立博物館平成館大講堂及び五島美術館で開催した。毎回 200 名を超す熱心な参加者を得ている。期末テスト・卒業レポートなどで学生のレベルの向上が見られるのは喜ばしいことである。

また、前回から始めた「臨書実技講座」は毎回 30 名を超す希望者があり、平安書道研究会での添削指導とは違った指導を受けることは出来、毎回好評である。

(2) 日本書道史研究講座の開催

昭和 32 年に平安書道研究会に併設して開講され、以後毎月 1 回日本書道史を体系的に学び特にその通史を中心に学ぶ日本書道史研究講座を、平成 30 年 4 月から平成 31 年 3 月まで、会場を東京国立博物館平成館大講堂及び五島美術館で開催した。平成 27 年 5 月に入学した第 59 期生 14 名が平成 30 年 4 月に 3 か年の全課程を終えて卒業した。

平成 30 年度の第 62 期入学生は 55 名であった。これは、講師の先生方や正会員の先生方の積極的なご支援により昨年度同様に多くの入学者を迎えることが出来た。

以 上